2008. 10. 30(木)山形新聞朝刊(3面)に掲載！

山形市コミュニティファンド

交付対象9事業決まる

山形市は、企業などの寄付金を市民活動の支援に結び付けようと今春創設した市コミュニティファンド（市民活動支援基金）について、補助金交付先を選考する第一回評議委員会を二十九日、市役所で開き、同ファンド初となる交付対象事業九件が決まった。

市は当初、来年度から交付スタートとしていたが、大口寄付もあり造成が順調に進んだため、本年度下半期に前倒しして実施。今回、同市のシベール（熊谷真一社長）による「文化・芸術支援基金」のうち二百万円を活用することにし、一件当たり上限三十万円として文化・芸術分野の市民団体から対象事業を募集、十二件の応募があった。

評議委員会は榎森正志企画調整部長を委員長とし外部有識者を含む九人で構成。一人三十点の持ち点で書類を審査し、①実行可能性②実施効果③経費の妥当性④独自性・先進性⑤波及効果⑥継続性―を各項目五点満点で配点、高得点の事業から順に採択が決まった。実施団体には事前に事業規模や内容に応じて査定した申請額がそれぞれ補助される。事業が採択された実施団体は次の通り。

▽マウンテンアッシュ山形▽県出身者新人音楽祭実行委員会▽さんの会（ぐるーぷえん）▽山形子ども劇場▽Alte管弦楽団▽山形ボーダレスアート実行委員会▽劇団アンポンタンパニック▽山形の音楽活動を応援する会・Mプロジェクト▽藤沢周平・司馬遼太郎文学研究会

関係者などで組織する選考委員による書類審査を行い、活動の効果やモデル性を基準に選考した。

その結果▽特定非営利活動法人（NPO法人）かみのやま福祉運送サービス（上山市）▽元気・まちネット（東京都）▽NPO法人子育てネットワークバルボンさん（新庄市）▽庄内農業高映画・演劇部（鶴岡市）▽まほろばの里の森を育む会（高畠町）―の五団体がやまがた公益大賞に決まった。

来月十四日に開かれる「やまがた社会貢献推進フォーラム」で、受賞団体による公開プレゼンテーションを実施し、選考委員と一般審査員の投票でグランプリ一団体を決定する。フォーラムでは授賞式のほか、基調講演やポスターセッションなどを行う。

「やまがた公益大賞」に5団体

来月14日にグランプリ

民間非営利団体（NPO）など団体や企業が地域課題の解決に取り組む、さまざまな公益活動を顕彰する県の「やまがた公益大賞」の受賞団体が二十八日、決まった。五団体が受賞し、来月十四日に山形市の遊学館で開かれる「やまがた社会貢献推進フォーラム」でプレゼンテーションを行い、この中からグランプリ一団体を選ぶ。

同賞は県民の公益活動への関心を高め、活動を活性化するのが狙い。NPOなど団体や企業が展開し、県内で大きな成果を収めている活動が対象で、十三団体から応募があった。学識経験者やNPO